

3は小形のもので、片面先端一ヶ所が剝離している。

その他黒曜石片142点、水晶片6点、頁岩片92点が検出された。また配石中より河原石の割れたものが多数検出されたが、明らかな使用痕およびそれらに規則性が見られなかったため、石器としては扱わなかった。

V. ま と め

1. 富士宮市内の縄文時代早期主要遺跡について

富士宮市内には、現在縄文時代早期の遺跡が19ヶ所確認されている。そのうち発掘調査がおこなわれた遺跡および出土資料の確認できたのは次のとおりである。

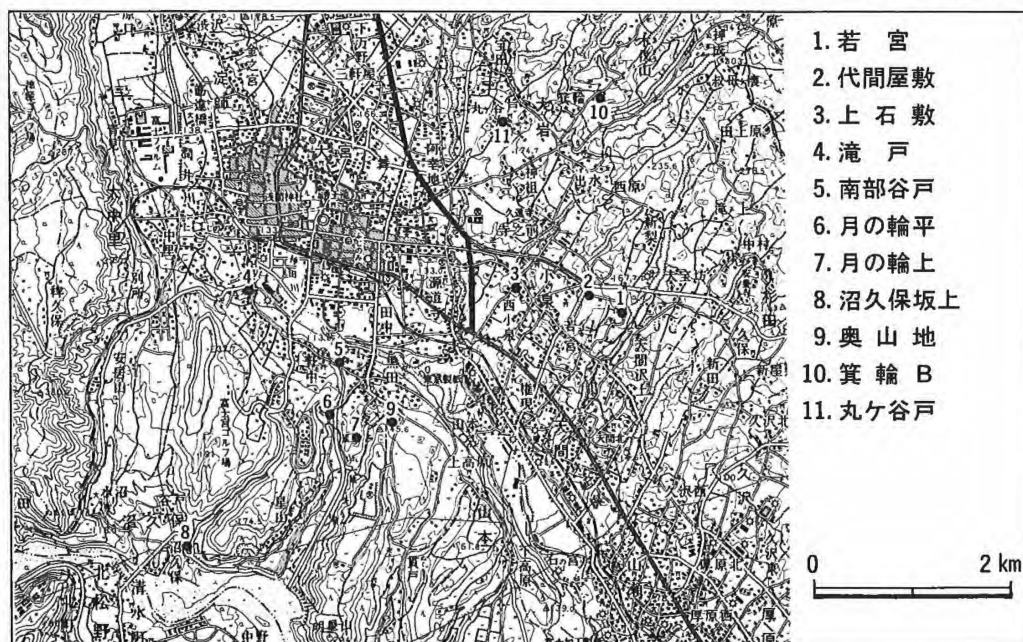
若宮遺跡

若宮遺跡は富士宮市小泉字古宮2343—23番地他に所在する。西富士道路（富士宮地区）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、昭和54～昭和57年にかけて発掘調査が実施された。

その結果、表裏縄文土器、縄文土器、撚糸文土器、押型文土器等の早期前半の土器群と、それに伴う石鏃、石皿、磨石等の石器が多数出土した。また堅穴住居跡28基、炉穴跡60基、集石土坑跡13基、集石跡5基、土坑跡12基の遺構が検出された。

代官屋敷遺跡

代官屋敷遺跡は富士宮市小泉字代官屋敷2244—2番地他に所在する。西富士道路建設工事に



第19図 富士宮市内の縄文時代早期主要遺跡位置図

伴う発掘調査として、昭和53～昭和56年にかけて若宮遺跡と並行して発掘調査が実施された。

その結果、撚糸文土器、押型文土器（楕円のみ）、沈線文土器、条痕文土器が出土し、遺構は集石跡5基が検出された。

上石敷遺跡

上石敷遺跡は富士宮市小泉石敷737-1番地他に所在する。昭和56年～昭和57年にかけて発掘調査が実施された。

その結果、撚糸文土器、条痕文土器が出土した。

滝戸遺跡

滝戸遺跡は富士宮市黒田658番地に所在する。市立第三中学校校舎建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、昭和51年～54年にかけて3回の発掘調査が実施された。

その第Ⅱ次調査（昭和52年）の際、撚糸文土器尖底部1点と無文土器が出土した。遺構は無文土器が伴う配石が指適されている。

月の輪平遺跡、南部谷戸遺跡

月の輪平遺跡は富士宮市星山字月の輪1020-2番地他、南部谷戸遺跡は同黒田360番地他に所在する。星山放水路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として、昭和45年～昭和47年にかけて実施された。さらに月の輪平遺跡は砂利採取工事に伴い昭和56年発掘調査が行われた。

その結果、古墳時代初頭の遺物に混在するかたちで、撚糸文土器、楕円押型文土器、絡条体圧痕文土器、条痕文土器等の縄文時代早期の遺物が検出された。

月の輪上遺跡

月の輪上遺跡は富士宮市星山字月の輪995-1番地他に所在する。昭和55年月の輪上遺跡緊急調査事業として発掘調査が実施され、弥生時代終末の集落跡が検出された。

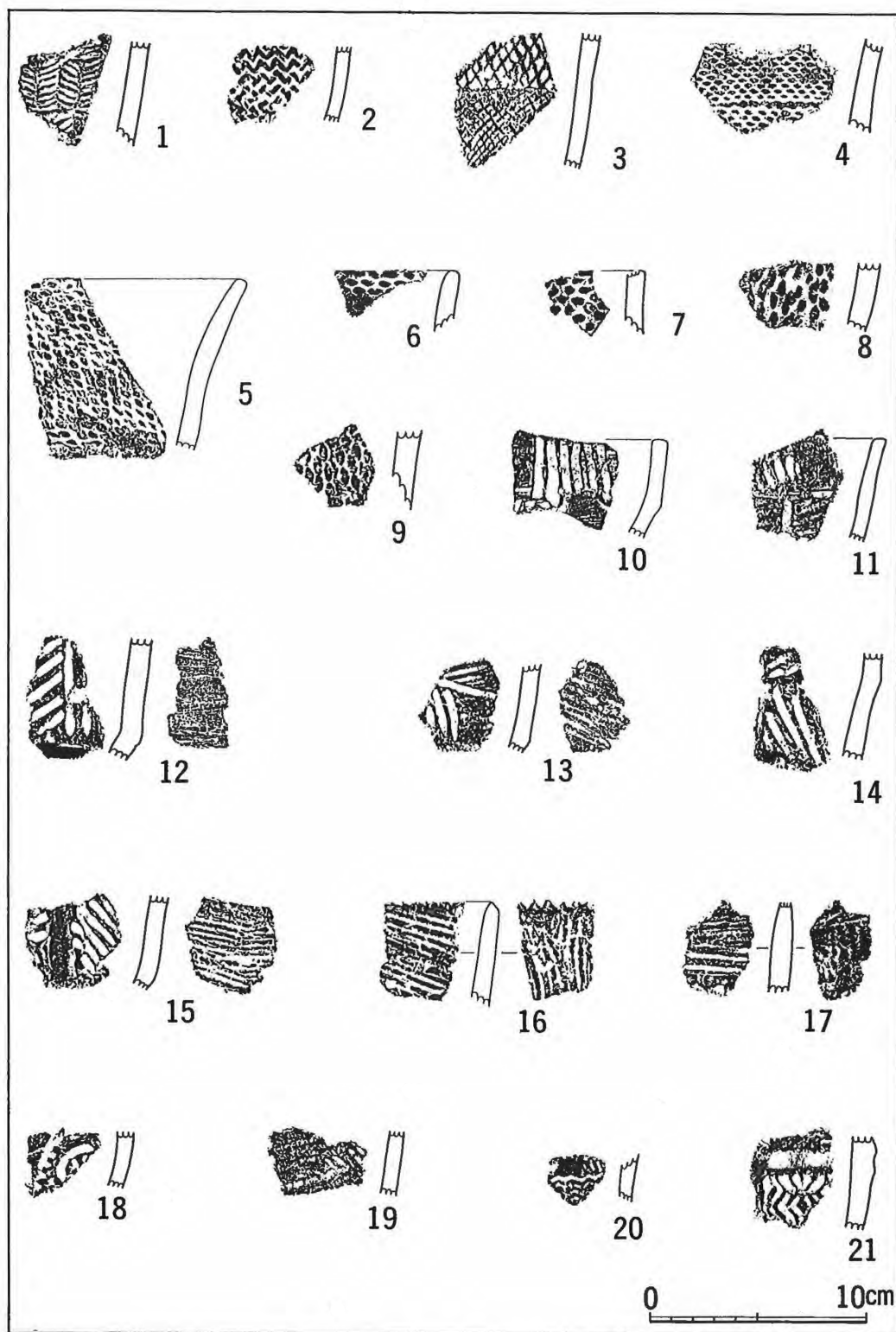
縄文時代早期遺物は発掘調査地点の南約200m付近で、野村昭光氏により表面採集されている。現況は畑地で、耕作により表面に露出したものである。

第20図1～19（図版第23）は月の輪上遺跡より表面採集されたものである。

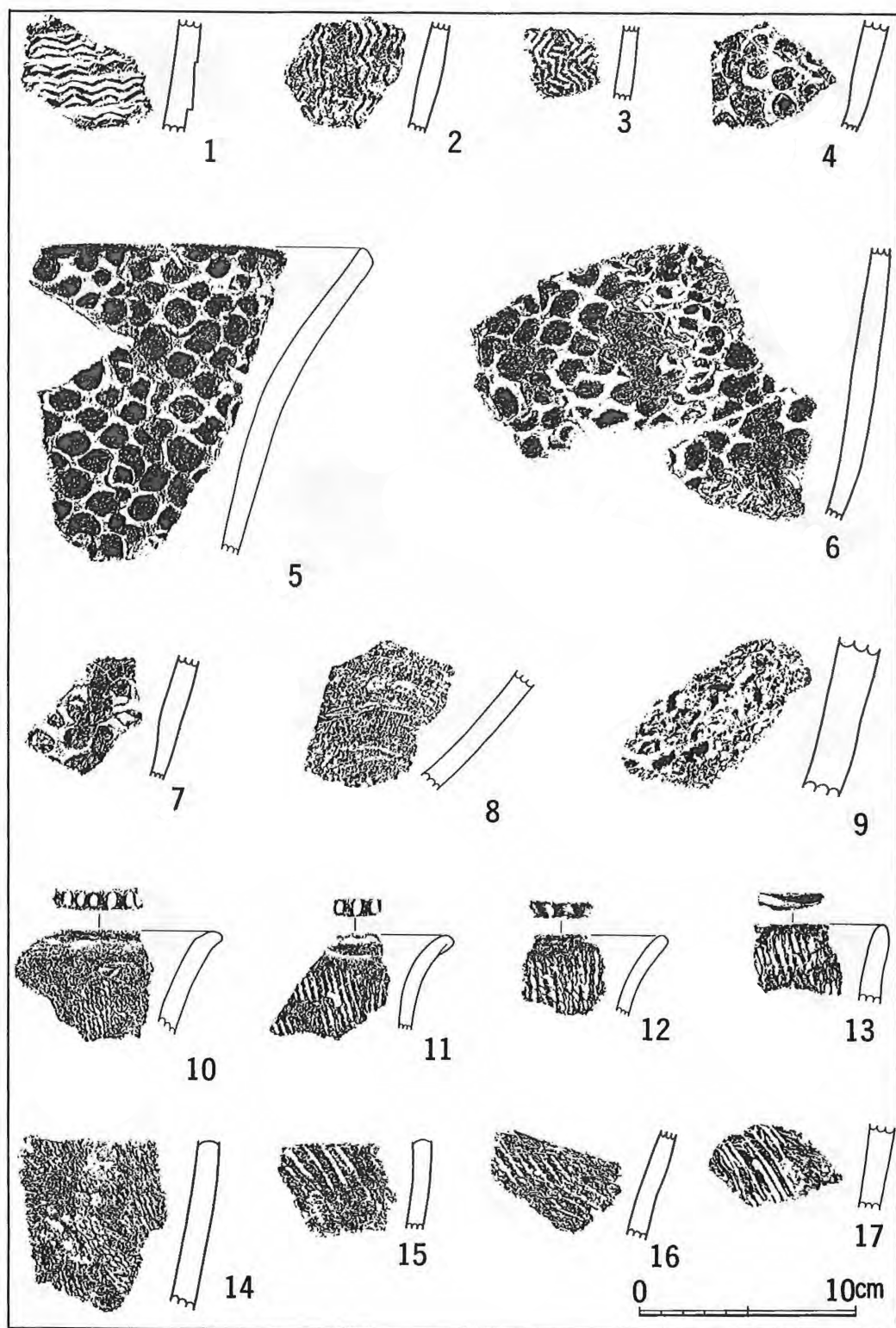
1～9は押型文土器である。1は原体1周に山形文1単位を印刻し横位回転した山形押型文が施文されている。山形文は山形頂部がとぎれ、幅が狭い。2は原体を横位回転して幅の広い山形文が施文される。3は2種類の格子目押型文が組み合わせて施文される。1は胎土に砂粒が多量に含有され、色調はにぶい褐色を呈する。2・3は胎土に多量に長石粒・石英粒を含有し、色調はにぶい褐色を呈する。

4～9は楕円押型文が施文される。4は原体を横位に回転して横位の細かな楕円押型文が施文される。胎土には多量の金雲母と長石粒・石英粒が含有され、色調は褐色を呈する。5は波状口縁を呈する。斜めの楕円押型文が施文される。原体の回転方向は縦位かと思われる。5・6は胎土に砂粒が多量に含有され、色調はにぶい褐色を呈する。7・9は胎土に繊維が含有される。8は石英粒・長石粒・金雲母が含有される。

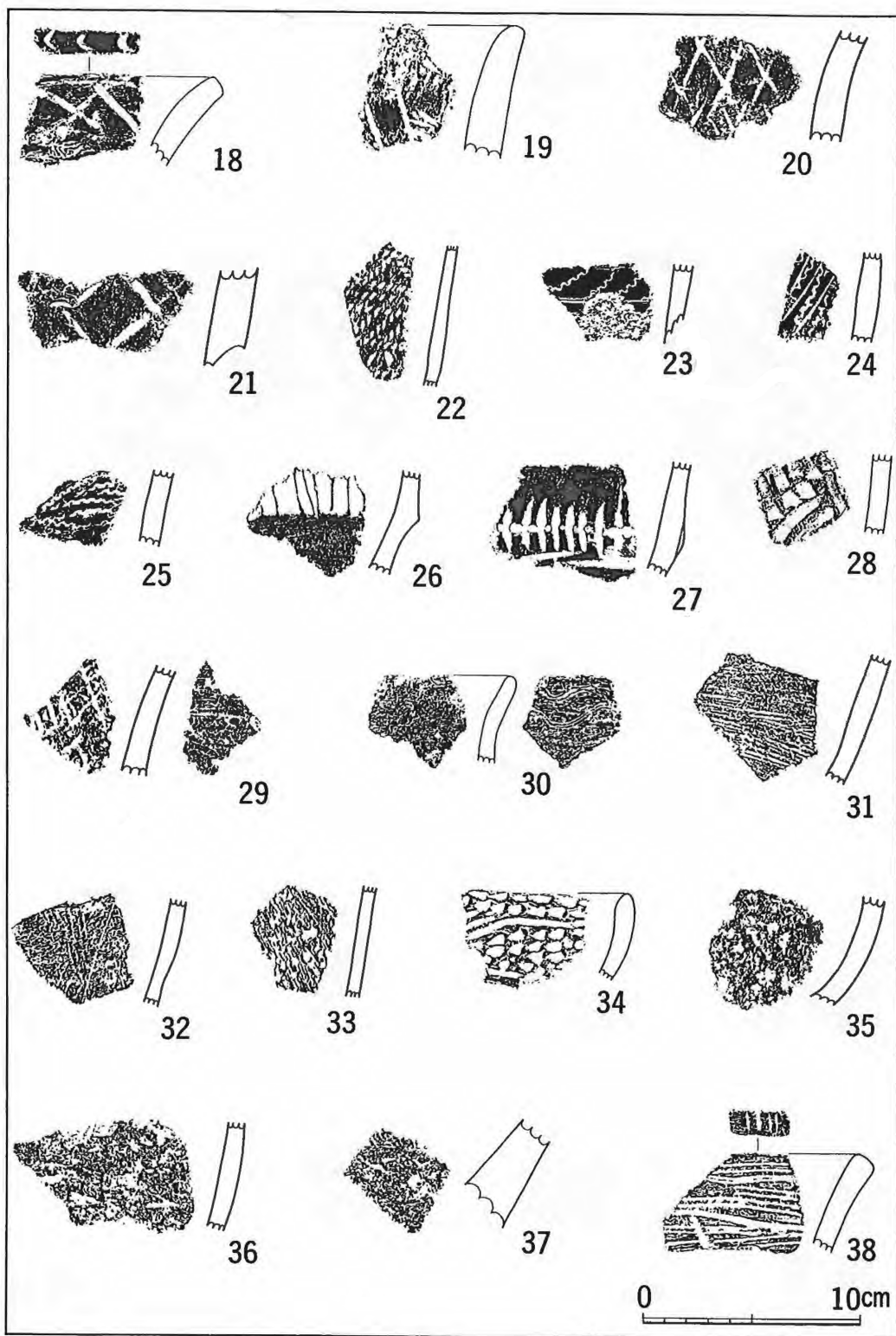
10～15は太い沈線文または凹線文が施文される。10・11は波状口縁で、10は屈曲する段が見



第20図 月の輪上遺跡・箕輪B遺跡・丸ヶ谷戸遺跡表面採集遺物



第21图 奥山地遺跡表面採集遺物①



第22圖 奥山地遺跡表面採集遺物②

られる。12～15は同部破片で段が見られる。12・13・15は内面に条痕文が見られる。胎土には繊維が含有され、色調はにぶい褐色を呈する。野島式土器の範疇に入るものと思われる。

16・17は内外面に明瞭な貝殻条痕文の施文されるもので、16は口唇部に丸い棒の側面を押圧した連続文が見られる。胎土には繊維が含有され、色調はにぶい褐色を呈する。

18は太い沈線文の曲線と連続刺突文の見られるもので、胎土に大粒の小石と繊維を含有する。

19は節の不明瞭な太い縄文が施文される。胎土に繊維を含有し、色調はにぶい褐色を呈する。

奥山地遺跡

奥山地遺跡は富士宮市黒田1043番地他に所在する。月の輪上遺跡の東約300mに位置し、明星丘陵北側緩斜面に立地する。

昭和46年桜木の植樹が行なわれ、その際多量の土器が出土し、野村昭光氏他により採集された。それは小野真一氏により報告されている。

第21図1～第22図38（図版第24～26）は奥山地遺跡より出土したものである。

1～9は押型文土器である。1～3は山形押型文が施文される。1は棒軸1周に2単位の山形文を印刻した原体を横位に回転した山形押型文が施文される。原体端は直角に切断される。原体径10mm。2は1に類似した原体を縦位に回転した山形押型文が施文される。3は原体を縦位および斜位に回転施文している。1～3は胎土に多量の長石・石英等の小礫と、少量の繊維を含有し、色調は灰褐色から赤褐色を呈する。

4～9は楕円押型文土器である。4～8は同一個体かと思われる。口縁部は大きく外反し、底部は尖底が推定される。径10～15mm前後の大形楕円文が施文される。原体回転方向は不規則である。器厚10mm。胎土に多量の長石・石英等の砂粒と繊維が含有される。色調はにぶい褐色から暗褐色を呈する。9は器厚20mmと厚く、不明瞭な大形楕円文が施文される。胎土は前者に類似する。

10～21は撚糸文土器である。10～12は同一個体かと思われる。弱く外反し、口唇部は粘土紐を貼付して整形し、丸棒の側面を押圧した連続文が見られる。1段R撚りの撚糸文が、口唇部直下に無文部を残して施文される。13は節の細長いLの撚糸文が施文され、口唇部には丸棒側面を斜めに押圧した文様が見られる。

14はRの撚糸文が無文部を残して斜位に施文される。15・16は条間隔の広いRの撚糸文が施文される。17は太いRの撚糸文と、細いLの撚糸文が施文される。

10～17は胎土に長石・石英等の小礫と繊維を含有し、色調はにぶい褐色から暗褐色を呈する。

18～21は交差する網目状の撚糸文の施文されるものである。18は外反する口縁部破片で、棒軸に0段R撚りの紐を網目状に捲いた原体を回転して施文したものか、斜の一方方向に捲いた原体を方向を変えて施文したものか判別できない。器厚10mm。21は18の同一個体かと思われる。器厚18mm。胎土に長石・石英の小礫と繊維を含有し、色調は明褐色を呈する。

19・20は同一個体かと思われる。18に同様の撚糸文が施文される。胎土は長石・石英等の小礫と繊維・金雲母が含有され、色調は褐色を呈する。

22は条間および節の間隔が広い縄文が施文される。縄を回転せず押圧したものかもしれない。器厚5～7mm。胎土に多量の金雲母を含有し、色調は褐色を呈する。

23～25は貝殻腹縁文の施文されるもので、23・24は沈線が伴う。胎土には微細な長石粒・石英粒・金雲母等が含有され、色調は褐色を呈する。

26は段を有する破片で、段上部に縦位の隆起線文が施文される。内面は横位の条痕文により器面調査される。胎土には小礫と繊維が含有され、色調は褐色を呈する。

27は粘土を横位に貼付し、その上に縦位の沈線文が施文される。胎土には繊維を含有する。28は丸い棒の先端を刺突しながら押し引いた文様が施文される。

29は沈線文が格子目状に施文され、内面には貝殻条痕文が見られる。30は器面の凹凸の激しい口縁部破片で、内面に波状の条痕文が施文される。31・32は外面に条痕文が施文される。33は条痕文と刺突文が見られる。29～33は胎土に石英粒・長石粒と繊維が含有され、色調は褐色から暗褐色を呈する。

34は内湾する口縁部破片で波状口縁となるかもしれない。全面に大きな刺突文と沈線文が施文される。胎土には砂粒と繊維が含有される。

35～37は底部付近の破片である。文様は施文されない。35・36は器厚8～10mm。37は15～20mmである。胎土は多量の小礫と繊維を含有し、色調は褐色を呈する。

38は平行沈線文が施文される。胎土に砂粒が多量に含有され、色調は暗褐色を呈する。

箕輪遺跡

箕輪遺跡は富士宮市大岩字箕輪に所在する。西側を箕輪A遺跡、東側を箕輪B遺跡と呼称している。古くから縄文時代中期～後期の遺跡として知られ、多量の遺物を出土している。第20図20は野村昭光氏により箕輪B遺跡より表面採集された山形押型文土器である。山形押型文が縦位と横位に施文されるもので、無文部を残しており、いわゆるいわゆる帯状施文構成をとるものである。器厚7mm。色調は灰色を呈する。

丸ヶ谷戸遺跡

丸ヶ谷戸遺跡は富士宮市大岩字丸ヶ谷戸に所在する。第20図21は野村昭光氏により表面採集されたもので、2帯の横位の隆帯と、その下に縦位の山形押型文が見られ、押型文が他種文様と伴用されるものである。胎土には砂粒と繊維が多量に含有され、色調は明褐色を呈する。

2. ま と め

遺構

今回の調査によって配石9基、土壇4基が検出された。検出面は第IV層暗褐色土層下層から第V層明褐色土層中であつた。構築時期は検出面および遺物出土状況から同一時期と判断される。

配石は構築状況から3つのタイプに分類される。